

4 現状を踏まえた課題



(1) 学びにつながるきっかけづくり

- 「生涯学習」に対する認識が不足している。
- きっかけづくりや生涯学習に取り組むようになるような工夫、忙しくても学習ができる工夫が必要。
- 広報春日井の発行回数が少なくなっており、生涯学習情報サイト「まなびや選科」の認知度も低い。
- 時代のニーズにあった手法を採り入れた情報発信、親しみやすく、分かりやすい情報発信が必要。
- 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、生涯学習に取り組む人の割合が大きく減少している。
- 若い世代はオンライン講座に対するニーズも高い。
- インターネット配信が可能な環境や機材等の整備施設設備の整備といった施設整備面での課題、配信、動画編集といった施設職員のスキル面での課題がある。
- 共生社会の実現に向けた生涯学習の充実が求められている。
 - ➔ 様々な機会を活用した生涯学習の重要性の周知・啓発。【 ② 】
 - ➔ 年代に応じた多様な情報発信。【 ① 】
 - ➔ 生涯学習に興味を持ってもらえるよう、単なる学習情報の発信だけでなく、生涯学習の魅力が伝わるような情報発信。【重点施策】 【 ② 】
 - ➔ 効果的な情報伝達手段の検討および多様な手段を用いた情報提供の実施。【 ① 】
 - ➔ 新しい生活様式に対応した生涯学習、若い世代や忙しい世代に向けた生涯学習の推進として、ICTを活用した学習機会の充実。【重点施策】 【 ⑥ 】
 - ➔ 年齢や性別、障がいの有無等によらない、だれもが気軽に学習に参加できるきっかけづくり・環境づくりの推進。【重点施策】 【 ⑦ 】

(2) 多様なニーズに応じた学ぶ機会の充実

- 生涯学習を盛んにするために市が力を入れるべきこととして、生涯学習講座の内容の充実を望む人が最も多い。
- 価値観やライフスタイルの多様化により、市民の学習ニーズも多様化し、求められる学習内容、学習方法は多岐にわたる。
- 人生100年時代の到来により、新たな学びを繰り返しながら新しい仕事に挑戦していく「マルチステージ」の生き方が重要になっている。

- ➡ アンケート等による学習ニーズの把握。各世代のニーズに応じた多様な学習メニューの提供【 ⑤・⑧・⑨・⑩・⑪ 】
- ➡ 様々な学習スタイルに合わせた学習機会の提供【 ⑱・⑲ 】
- ➡ 社会に出てからも必要な知識やスキルを身につけるための学び直し（リカレント教育）の推進に向けた取組の検討【 ⑫ 】

(3)学んだ成果を生かせる仕組みづくり

- 情報サイト登録講師は微増するも、活躍の場が少ない。
- 生涯学習活動団体会員数が減少しており、公民館まつり参加団体数も減少している。
- 地域コミュニティのつながりは希薄化しており、地域の課題も複雑化かつ複合化している。
 - ➡ 情報サイト登録者や生涯学習活動団体が活躍できる機会の充実【 ⑳・㉘・㉙ 】
 - ➡ 生涯学習活動団体への支援の充実【 ㉚ 】
 - ➡ 市民が地域活動の担い手として活躍することができる場の提供、関係機関との連携・協力体制の充実【 ㉜・㉝ 】
 - ➡ まちづくりを進める上で必要な知識・スキル等を学べる機会の充実【 ㉞～㉟ 】
 - ➡ 市民一人ひとりの学びを地域の生活課題の解決につなげる仕組みの検討【 ㉜・㉝・㉞ 】

(4)学びを豊かにする環境づくり

- 生涯学習活動団体会員数が減少しており、施設利用者数も減少している。
- 公民館、ふれあいセンター等について、講座や貸館、公民館まつりへの参加など生涯学習を目的とした利用の割合は、住民票等の発行など生涯学習以外の目的での利用の割合に比べてやや低い。
- 築 30 年以上の施設も多く、今後、老朽化の進展が懸念される。
- 多様化する学習ニーズに対応できる学習環境が求められる。
 - ➡ 気軽に活用してもらえるような魅力ある施設となるような取組の推進。（利便性の向上、新たな交流の創出等）【重点施策】【 ㉞ 】
 - ➡ 施設の利用に関する情報だけでなく、施設の魅力を伝える情報の発信。【 ㉞ 】
 - ➡ 生涯学習施設の利用促進につながる施設情報の効果的な発信【 ㉞ 】
 - ➡ 利用者にとって安全で快適な学習環境の提供【 ㉟ 】
 - ➡ 学習ニーズの多様化・高度化に対応できるよう、高等教育機関や地域の企業等との連携強化【 ㊱ 】